

による CEA を測定し、その値を把握することを目的に一連の基礎的、臨床的検討を行った。

5種の試料による精度と再現性は3キットともに満足する成績であったが、回収試験において第一は試料により低回収率となった。また、6濃度による希釈試験は高濃度の2本にて第一は凸の曲線を呈したが、130 ng/ml以下において他のキットと同様な直線性を示した。

ダイナボットペーパーディスク法との比較は160検体において第一、栄研、ダイナビーズの順の相関成績で、その測定値はキットにより大きな差があり解離した値も示した。

健常者98名の値は2SDを上限に、ダイナビーズ3.0 ng/ml、第一3.5 ng/ml、栄研4.5 ng/mlとなった。一方、癌、非癌患者血清の陽性率は3キットとも大差なく同一症例での変動も同様にとらえ、臨床検査として用いる性能を示した。

19. ACTH ミドリ十字 RIA キットの問題点

北野 充絵 紫芝 良昌 (虎の門・内分泌)

〔目的と方法〕 Cis 製 Kit での ACTH の測定には false-positive が少なからず存在している。その対策として false-positive を示した血清とアジソン病、クッシング病で ACTH 高値の血清について Cis-Charcoal 法、Amersham 法、SEP-PAK 抽出 Cis 法、Cis 改良型の4方法で測定し検討した。

〔結果〕 false-positive を示した血清を SEP-PAK で抽出し Cis-charcoal 法で測定すると Amersham 法での結果とよく一致した。アジソン病、クッシング病では抽出の有無にかかわらず Amersham 法と一致した。Cis 改良型は false-positive は消えたがアジソン病、クッシング病で Cis-Charcoal 法の30%になる。

〔結論〕 血清を SEP-PAK で抽出し Cis-Charcoal 法で測定すると false-positive がなくなり最も良い結果が得られる。